



福井大学構内での試験施工

福井県建設技術公社は9月26日、福井市のAOSAで「ふくい建設技術フォーラム」を開催した。同公社が支援した産学官共同研究の成果を発表したもので、福井宇部生コンクリートと福井大学、福井県の「フライアッシュ混合型高炉セメントコンクリート」など6件の研究概要が紹介された。

「フライアッシュ混合 ート」は高炉セメントを度ひび割れ・乾燥収縮ひび割れ抑制効果にひび割れ低減型

が発生する事 例が多いこと から、フライ アッシュを生 合し、ひび割 れ抑制対策を 講じるもの。 今年3月には 公社が「フ ライアッシュ 混合型高炉セ メントコンク リート」(温 れを抑制するため、着目

高炉とフライでひび割れ抑制

福井宇部が研究発表

したのが明石海峽大橋工 事などに適用された3成 分系セメント。このセメ ントは特殊セメントであ り、一般の工事に使用す るのはむずかしい。その ため、生コン工場が高炉

体的には①空気運行情 況、空気量保持性能が低下 し、その結果、凍結融解 抵抗性が低下する②硬化 後のコンクリート表面に 黒ずみ、色むらが発生す るというもので、フライ

ふくい建設 技術フォーラム

セメントコンクリートに フライアッシュを混和材 として混合できないかと 考えた。 フライアッシュを使用 する場合、未燃カーボン の影響が懸念される。具

通常のAE減水剤と併用 するもので、空気量を調 整しながら添加量を決定 する。特殊AE剤を使用 することで上記の問題を クリアできた。

施工指針(案)では使 用するフライアッシュを 「北陸電力敦賀火力発電 所から排出されるII種の フライアッシュ混和材」 と規定。置換率20%を標 準とし、貯蔵・計量設備 は専用のものとしなけれ ばならない。養生は「高 炉セメントB種を用いた コンクリートと同等の期 間」で、工場は「JIS マーク表示認証工場」で、 かつ福井県から「フライ アッシュ混合型高炉セメ ントコンクリート」のリ サイクル認定を受けてい る工場のなかから選定し なければならない」とし ている。 今年度は県土木部発注 の九頭竜川流域下水道事

業放流ポンプ棟増設(土 木)工事での適用を予定 している。